

・ 日本人の場合、本人は全く政治的な人間ではないとしても、暴力や犯罪的なものに触れると、オイディップスコンプレックスが成立しようとし、無自覚に父殺しとしての、反米的な人間になろうとする。それは、反社会性、社会からの逸脱性の傾向の証、としてそちらの世界に渡っていない日本人からは見える。

左翼的な反米人、保守的な民族主義的極右的な反米人でもいい。それは、どちらも同じ、意識に作られるプロットの性質は右系か左系かで違うが、同じ心的傾向性、同じ精神の過ちを犯した状態にあるのである。そういう精神にあるものが、政治に触れると、どちらも現実に対して、現実離れした極端な対応を取ろうとし、社会から遠ざかるような場所、現実から遠い遠い場所へ心が移動し、強い反米的なものに吸収されようとする。

どちらにしても父殺しの傾向があるという点、それだけは共通する。右か左か、などと争われる、意識に現れて主張されている知的作用が作る観念の連続の妄想の内容など、この際どうでもよく、その現実離れした、社会からの逸脱性、犯罪性こそが問題である。それらは、共に野蛮であるという点を隠蔽してある。

しかし、それを意識化させてみても、一層野蛮さが際立つだけである、ということもあるだろう。穏当な、緩やかで、社会に害の少ない形の争いへ、左右を誘導するほうがよく、反米連合、という心的傾向性だけの同一性を持つ、反社会連合が作られることが最も野蛮で有害だ。その時、日本の政治史にて、過去にあったような大政翼賛が作られる。

行動化させない方がいいものは、意識に意識化させる活性をさせることもしない方が、相対的に行動化される確率が減るような、意識が抑圧に失敗して抑圧できない瞬間が生じ、その行動をさせてしまう恐れも少なくなるものだ。沈黙は金なり、悪い思い、悪い言葉、それらはその表現を控えるような努力により、その反映のような悪い行動が生じる確率も極端に減るものである。距離を置くために、知ったのなら、距離を置くための努力をするために、知ったということすら知らないような、表現を避ける素振りさえもする。

・ 実際に扱いたい情報の種類に対して、その情報しかこの世に存在しないというように、その他の情報は避けて、全く関わらず、仕事についての情報しか、心が扱わないという時、心が理想と現実との間で、現実が理想へと近づくような努力がなされる同化がされていて、その時、現在の意識、志向性は理想の情報に同期している。心が同期させている。現在が理想の情報に対して同じ情報になるように努力して同期されている。そんな風に現在の時間が経過するとき、その現在は理想そのものと同化されている現実が訪れている。つまり、その現実は同時に理想の実際の到来そのものでもあるのだ。現在が理想に同期している。これは、無意識的なものであるが、実質は、潜在では、理想の生そのものへと現実が成っている。その生に本当に理想として、過去に描いた像の近似が、未来の時間にて訪れること、それは時間の問題である。いつまでも、心が、現実に対処する情報と理想として思い描いた選別された扱いたい情報とを同期させ続けることが出来たのなら。未来に存在するミネルヴァのフクロウは、理想の生を過ごしていた、と後にその現在の生に対して、思い出という形でしか、指摘は出来ないものの、告げることであろう。

P1934